

筑前町女性センター

自分にあつた働き方を

見つけませんか？

働き方がし講座

再就職のために必要なことって何？仕事を始める…さまざまに不安がココロをよぎります。そんな不安をちよつと軽くする講座です。自分の働き方をみつめる機会ですので、そのうちに…と考えている人もぜひご参加ください。

期日 2月22日(金) 10時～12時

会場 女性センター

講師 田代千峰美さん

受講料 無料

託児 あり(要予約)

申込×切 2月15日(金)

※個別就業相談あります

13時～15時(予約者優先)

申込・問合先 女性センター

☎22・3996

FAX23・1533



筑前町社会福祉協議会

☎42・4555

筑前町白百合会会員募集

発足して3年目を迎える筑前町白百合会は、夫と死別・離別した当時に15歳未満の子どもを扶養し、25年以上経過したみなさんと構成しています。随時会員を募集していますので、参加してみませんか。

第3回白百合会講習

日時 3月4日(火)

会場 筑前町女性センター

内容 体験談発表・交流会

申込×切 2月15日(金)

問合先 社会福祉協議会



昨年度の様子

2月の心配ごと相談日

1日・15日(金) 13時30分～16時

コスモスプラザ保健館相談室

交番だより



地域で守ろう

子どもの安全

●不審者情報の通報

子どもに対する声掛け事案、変質者その他不審者の出没など、子どもに対する犯罪の前兆と思われるものを見聞きした場合は、必ず警察へ通報しましょう。

●子どもの登下校を地域全体で見守る体制の整備

地域ボランティアの協力を得て、あいさつを交わしながら子どもの登下校を見守ったり、看板を設置することで、地域全体が子どもを見守っているという雰囲気を作りましょう。

●子どもに対する指導

子ども自身に危険予測能力や危険回避能力が養われるよう日頃から指導し、万一の事態に遭遇した場合は対処が出来るよう訓練をしましょう。

筑前町 12月の事故等発生状況		
	夜須交番	三輪交番
物件事故	27件	17件
人身事故	12件	10件
屋内盗	1件	3件
屋外盗	9件	9件
その他	1件	1件

知っておこう！

振り込め詐欺対処法

振り込め詐欺の種類と防犯対策

①肉親や警察官などになりすまし、交通事故示談金などの名目で現金を騙し取る「オレオレ詐欺」
↓「こちらからかけ直す」と言つて、1回電話を切り冷静になる。

②郵便、インターネットなどを利用して不特定多数の人に対し、架空の料金を請求し、現金を騙し取る「架空請求詐欺」
↓個人情報絶対に教えない。

③実際には融資しないにも関わらず、融資する旨の文章を送り、融資を申し込んで来た人に対し、保証金などの名目で現金をだまし取る「融資保証金詐欺」
↓融資のためにお金を振り込まない。先に振り込みを要求するのはほとんど悪徳業者です。

これらに共通する手口は、一人で悩ませて結論を急がせ、思考能力を奪おうとする点です。まず落ち着いてから警察や友人・知人に相談をしましょう!!

三輪公民館旬会

初句会披露を前の咳払い

弓始物見の眼生きてをり 選者 栗野見山子

介護師の湯の女となりぬ初湯かな 寺崎 求己

流し合ふ娘と其の初湯かな 友枝カズエ

部屋ごとに真新しきは初暦 山本 花心

ゆく年を野良の隅なる日だまりに 大場 里川

生かされて生きて八十路の初詣 北原 田人

夜須歌壇 層増岐野 栗野 静女

「菓作りは今年も此処にしましうか」 鶴の声する電柱の梢 本田 晴子

横なぐりの雪止みてきぬ元目を散歩に出たり犬に引かれて 小林 勝栄

在りし日の妻のぬもり助手席に乗せつつ早春のやまなみを行く 手柴 俊光

この年も無理なく励め自分流に古稀近づきし元朝に記す 飯倉シズ子

雨やみて霽晴れてゆく山里に独り住いの五年目の春 宮野 顕子

載し南瓜つぶして作りたるポター 柿原チサエ

暗闇に差し込むキーの鈴が鳴る三十余年住みにしこの家 宮原美智子

筑前町の史跡・名勝・伝承

27 旧街道点描 (久光)

古代、熊ヶ山のあたりを官道(国道)が通り、隈崎という馬つぎの駅があったといわれています。

戦国時代、久光の阿弥陀ヶ峰に秋月氏の出城があり、板並左京守という侍が城をあずかっていました。

江戸時代になって、黒田長政の時、久光村は栗田村から分されました。村中の五穀神社は久光村の産土神ですが、明和二年の一七六五年、上高場村から阿弥陀ヶ峰に移されたものです。文政三年の一八二〇年、秋月藩は五穀神社の境内に倉を建て、飢饉に備えて米などを蓄えました。その米は七年後に一八八五俵にもなり、大風の時、村々に貸し与えられました。

神社の石段の下は街道の分かれ道になっています。南東の道は甘木・日田への豊後街道です。北東の山の麓をぬう道は古く、弥永を通つて秋月の城下町に向かう道です。

久光の阿弥陀ヶ峰の大狸

①昔、久光の阿弥陀ヶ峰という山におそろしい化け物が住んでいました。夜になると、その化け物は阿弥陀さまに化け、あやしげに光り輝き、人々をたぶらかしていました。



阿弥陀ヶ峰の大狸

②そして、今年もまた、村人たちにとって、つらい季節がやって来ました。化け物が阿弥陀さまになりすまし、「いけにえに娘を一人差し出せば、皆を極楽浄土に導こう」と告げたのです。阿弥陀さまのおっしゃることですから、村人たちは誰も断わるることが出来ません。

③今年はこの家の娘を「いけにえ」に差し出すか、それはそれは大騒ぎです。その時、弓矢をもった一人の狸師が通りかかき、「それはまた、奇妙なお告げだ。私が化け物の正体をあばいてやるから、おまかせ下され」と申し出ました。村人たちは、疑いながらもほかにどうすることも出来ず、この狸師に頼むことにしました。

④陽が沈むと、村人たちは小山の上

に祭壇をつくり、娘を「いけにえ」に捧げる準備を始めました。

狸師はというと、暗やみに隠れ、あやしげな光を放つ阿弥陀さまを待ったのです。

⑤ま夜中のうしみつ時、つめたい風の中、その化け物は口を開け、目をギラギラと光らせてやって来しました。

化け物は祭壇の火を恐れ、赤い毛せんに化けて地面を這いながら、少しずつ、「いけにえ」の娘に近づいて来しました。

その機会をうかがっていた狸師は、力いっぱい弓を引き、矢を放ちました。化け物は「ぎゃーっ」と、大きな叫び声を上げながら、暗やみの中へ逃げ込んで行きました。

⑥次の朝、村人たちが、化け物の血をたどって行くと、裏山の小さな洞穴に着きました。

そこで、穴の中に焚き火の煙を送り込むと、化け物は大きなうめぎ声を上げました。のぞいてみると、矢が刺さった大だぬきが一匹、死んでいました。

村人たちは、狸師の勇氣に感謝しました。しかし、狸師は、村人たちの知らない間に、いづこともなく立ち去っていました。

※いけにえ…生き物を生きたまま供えること
※うしみつ時…午前二時から二時半

(教育委員会 生涯学習課)